

先行事例による経費等比較

学校名	港区立高輪台小学校	中央区立明正小学校
用途地域	第1種中高層住居専用地域	商業地域
建ぺい率	60%	80%
容積率	300%	500%
敷地面積	6,291.00m ²	5,005.46m ²
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①建物の老朽化 ②耐震補強 ③教育機能の充実強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①建物の老朽化 ②児童の増加傾向及び長期的な児童・園児数への対応 ③将来的な教育ニーズ等の変化への対応
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ①地域から親しまれてきた東京都選定歴史的建造物を生かす。 ②狭い敷地を有効活用し、校庭を少しでも広くとれるような方法を考える。 ③新学習指導要領における総合的な学習の運用など新しい教育環境の整備を行う。 ④時代に対応したバリアフリーや環境配慮型の設備の整備を行う。 ⑤地域との共生のため、地域の方々への開放を考えた施設とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子供たちにとって、地域の人々にとってかけがえのない場所としての学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を育む、「学びの場」としての学校 ・安全・快適で楽しい、「生活の場」としての学校 ・地域コミュニティの核となり、人々に利用され、愛される、「地域の拠点」としての学校 ・いざという時に地域の人々の安全を守る、「防災拠点」としての学校 ②子供たちの思い出を育み、記憶を未来へ引き継ぐ学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や地域の歴史と伝統を未来へ伝える。 ・景観と調和し、地域のシンボルとなる学校づくり ・100年機能する学校を目指す。
手法	改修	改築
総工事費（A）	2,790,000,000円	4,415,123,000円
延床面積（B）	6,700.00m ²	11,701.99m ²
m ² 単価（A/B）	416,418円	377,297円
工期	平成14年9月から平成17年3月まで（約2年半）	平成24年10月から平成26年9月まで（約2年）
使用開始	平成17年4月	平成26年9月
仮校舎	廃校になった中学校	中央小学校内

学校名		港区立高輪台小学校	中央区立明正小学校
施設整備 の内容	普通教室	<ul style="list-style-type: none"> ・広さは従来どおり (約58.8㎡) ※当初12教室・現在16教室・将来予測26教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・広さ・機能の拡充 (59㎡→72㎡) ※当初12教室、最大18学級まで対応可能
	特別教室	<ul style="list-style-type: none"> ・広さは従来どおり 	<ul style="list-style-type: none"> ・広さ・機能の拡充
	体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・拡充 ※1階→地下 校庭を広くするため 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡充 (約400㎡→600㎡超) ※1階→3階
	校庭	<ul style="list-style-type: none"> ・拡充 ※トラック80m→100m 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡充 (約2,000㎡→2,400㎡)
	プール	<ul style="list-style-type: none"> ・改修していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに設置 ※1階→屋上 校庭を広くするため
	イメージの継承	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁改修 ・3か所のうち1か所の階段の柱はそのまま利用 ・階段の形状を継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物角の曲面、廊下のアーチデザインの継承 ・ステンドグラスの一部再利用
	耐震補強	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震 (教室間の仕切りに補強材を入れ、柱の鉄筋に帯筋を巻くなど) と制震 (内側の壁に粘性ダンパという金具を埋め込む。) の併用 	—
併設施設		—	<ul style="list-style-type: none"> ①明正幼稚園 ②新川児童館 ③放課後の子どもの居場所「プレイデイ」
備考		<ul style="list-style-type: none"> ・躯体を残し、限られた面積で需要に合わせ配置変更を実施した。 ・大型重機がほとんど使えなかったため、壁のモルタルを剥がすのも、手作業が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧校舎のコンクリート及び地下にあった防空壕の解体が難工事であった。